

驛市の最重要課題の一つと捉え、引き続き調査検討と詰めが必要ということで、次年度に引き継ぎをします。

2月12日に神通川水系砂防工事事務所の所長・副所長より講義を受ける形で研修会を行いました。大正初期に開設された神通川水系砂防工事事務所は、まもなく100周年を迎えます。先人たちもまた災害等に苦難をし、防災に絶ゆまぬ努力をしてきたことで、現在の治山・治水がなされてきたという歴史に感銘を受けました。中山間地域の飛驒市の安心・安全・防災については不断の努力を厭わない覚悟を持たなければと、考えを新たにしました。

2月21日は古川商工会の皆さんと飛驒古川活性化に向けての懇談会を持ちました。「地域活性化に向けて情報や考え方を共有しよう」というテーマで率直な意見交換会ができました。高齢化率の高まりと人口減少問題の中、古川商工会の抱えている諸問題は飛驒市全体にも通ずるものであり、とても今後の政策提言に参考になりました。以上を産業常任委員会の報告とします。

議員定数等特別委員会

委員長 後藤 和 正

設置の経過

平成23年度に議会改革特別委員会が設置され、合併10年目の平成26年度までに議員定数を見直すことを決議しました。

それに基づき平成25年3月本会議にて議員定数等特別委員会(9人)が設置されました。

調査の目的

議員定数等についての調査研究を目的とする。

参考資料

県内各市の議員定数、人口、世帯数、将来推計人口、高齢化率、面積、一般会計予算、財政規模等の重要項目、常任委員会定数、職員数、議員報酬、議員年齢構成調査票等。

有識者による研修会

帝京大学教授・自治大学校客員教授の内貴滋先生を迎え、研修会を開催。また、正副委員長にて明治大学政経学部講師廣瀬和彦先生の行政管理講座「地方議員の定数・報酬等の考え方」を受講し、そのレポートを基礎資料として活用。

視察調査

当市より議員定数の少ない下呂市、美濃市、山県市議会を訪問し、各議会の議員定数の経緯や根拠、委員会運営、議員報酬等の調査をしました。

議員定数の素案

全員協議会を開催し委員外委員の意見聴取を行いました。各会派で議員定数(案)を取りまとめた結果、ひだ市政クラブ、新生飛政会ともに14名でした。

委員会においてそれらの意見を踏まえ調査結果と合わせて協議し、素案を14人することに決定しました。

⑦市民意見の聴取

その素案に対して市民意見の募集と4町の区長会、自治会協議会等に意見の取りまとめをお願いしました。

パブリックコメントは7名からご意見をいただきました。

議員定数10人という意見が2人で、その他に議員定数11人、12人、13人以下、13～14人、あまり少なくしないとする意見がありました。減員では、

財政規模や人口での他市との比較が主たる理由でした。

区長会、自治会協議会等の回答では、古川町からは、定数の削減と議長採決がない偶数という理由から素案に賛成との回答をいただきました。

河合、宮川、神岡町からは、地域ごとの意見を列記され提出をいただきましたが、素案に対して各町とも賛成多数でありました。

今回の市民意見の募集及び区長会自治会の皆様には、貴重なご意見をお寄せいただき誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

市民意見と回答書は、議員全員に配布いたしました。各議員が参考にして議会及び議員活動に取り組んでいきます。

⑧条例改正案可決

市民意見をいただき、これまでの経過と合わせ協議し、委員会で採決した結果、賛成多数で次回選挙より14名とすることで3月本会議に委員会発議することに決しました。

本会議では議長を除く採決で賛成15人、反対1人で同条例改正案は可決しました。

編集後記

飛驒市誕生から十一年目を迎えた。合併前の旧町村からの継続事業、学校の建て替えや耐震化工事、また保育園の整備やクリーンセンター等の施設が整備された。今年度から始まるリサイクルセンターや宮川振興事務所等が整備されると、市内の大型事業はほぼ完了することになる。これまでの十年間、合併特例という恩恵を受けながら、多くのハード事業が行われてきた。

一方この間、予想を超える人口減少と高齢化が進み、市内には一割近い空き家が存在することが判明した。議会でも様々な角度から調査し、その対策について政策提言を目指してきたが、具体的な方向を示すには至らなかった。今年度も重要課題と位置づけ、継続して取り組む計画である。

今議会において会派を超えとりまとめた、いくつかの議員発議案件が可決された。多くの課題について、議会一丸となって取り組んでいきたい。